

# 林治

旧名

富田治

はやし・おさむ とみた・おさむ

誠之館教師(化学・物理・博物)、福山商工会議所会頭(第3代)

## 経歴

生:明治33年(1900年)8月25日、大阪市南区農人橋生まれ

没:昭和58年(1983年)9月17日、享年83歳

大正3年(1914年)4月1日	13歳	大阪府立四條畷中学校入学
大正8年(1919年)3月28日	18歳	大阪府立四條畷中学校卒業
大正8年(1919年)4月1日	18歳	官立秋田鉱山専門学校冶金科入学
大正11年(1922年)3月22日	21歳	官立秋田鉱山専門学校冶金科卒業
大正11年(1922年)4月26日	21歳	京都市立第二商業学校教諭
大正13年(1924年)4月9日	23歳	広島県へ出向
大正13年(1924年)4月14日	23歳	広島県立福山中学校(誠之館)教諭<化学・博物>
大正14年(1925年)10月31日	25歳	養子縁組により林と改姓
昭和3年(1928年)11月16日	28歳	大禮記念章
昭和16年(1941年)7月22日	40歳	叙従六位
昭和16年(1941年)7月23日	40歳	広島県立福山誠之館中学校辞任
昭和18年(1943年)1月4日	42歳	野球部部长林治教諭謝恩野球大会
昭和18年(1943年)9月	43歳	(有)大同重機製作所総務部長
昭和18年(1943年)	43歳	広島県立福山誠之館中学校教諭
昭和21年(1946年)4月30日	45歳	広島県立福山誠之館中学校教諭辞任
昭和21年(1946年)9月～12月	46歳	広島県製氷株式会社代表取締役
昭和22年(1947年)7月	46歳	(有)大同重機製作所退職
昭和22年(1947年)	47歳	広島県製氷株式会社代表取締役
昭和22年(1947年)12月	47歳	広島県製氷株式会社代表取締役辞任
昭和24年(1949年)10月	49歳	福山商工会議所理事
昭和25年(1950年)1月	49歳	福山家庭裁判所調停委員
昭和25年(1950年)5月	49歳	福山冷凍株式会社社長

昭和27年(1952年)4月～ 昭和30年(1955年)4月	51～ 54歳	福山市公平委員
昭和28年(1953年)7月	52歳	広島県冷凍製氷株式会社取締役
昭和30年(1955年)6月	54歳	福山信用金庫理事
昭和31年(1956年)10月	56歳	福山産業活動調整協議会委員
昭和34年(1959年)3月11日～ 昭和40年(1965年)3月19日	58～ 64歳	福山商工会議所副会頭
昭和34年(1959年)10月	59歳	広島県冷凍商工組合理事
昭和36年(1961年)4月1日	60歳	福山産業活動調整協議会会長
昭和37年(1962年)2月～ 昭和41年(1966年)5月	61歳	広島テレビ放送株式会社監査役
昭和40年(1965年)3月20日～ 昭和41年(1966年)11月16日	64～ 66歳	福山商工会議所会頭(第3代)
昭和41年(1966年)5月～ 昭和51年(1976年)6月	65～ 75歳	広島テレビ放送株式会社専務
昭和51年(1976年)6月	75歳	広島テレビ放送株式会社取締役
昭和54年(1979年)	79歳	福山冷凍株式会社会長
昭和54年(1979年)11月	79歳	日本商工会議所表彰
—	—	五十鈴化学株式会社代表取締役
—	—	福山パン株式会社取締役

## 林治先生のこと 岩崎博(昭和19年卒)

林治先生は明治32年(1899年)8月5日、靱、富田家に生誕されたが、大正14年(1925年)、望まれて福山の素封家、林為助家に養子として入られた。大正11年(1922年)、官立秋田鉱山専門学校冶金科を卒業、教職を志され、京都市立第二商業学校へ教員として奉職。大正13年(1924年)、郷里福山に帰り、県立福山中学校(のちの県立福山誠之館中学校)において、昭和21年(1946年)ご退職に至るまで、多年に亙り教育者として数多くの子弟を教えられ、厚い信望を受けられた。昭和18年(1943年)1月4日、野球部部長林治教諭謝恩野球大会が誠之館運動場で開かれた。

戦後、教職を辞し実業界に進まれるや、やがて福山冷凍株式会社社長、広島県製氷株式会社、五十鈴化学㈱代表取締役、有限会社大同重機専務、福山信用金庫理事、広島テレビ専務、靱鉄道株式会社取締役、福山パン株式会社取締役等多くの要職を歴任され、財界の指導的立場に立たれた。この間地域社会にあつては家裁調停委員、市公安委員、護国神社総代、商工会議所理事、副会頭、会頭(第3代)、福山商業活動調整協議会会長、福山八幡社

宮崇敬会会長等、請われて数々の社会的要職に就任、その私心なき適切な助言は各界から強い信頼をもって迎えられた。

先生はいつも、目先に捉われず大局を觀じ、問題の処理に際しては謙虚に人の意見を聴し、そのうえでみずからの責任により合理的判断を得んとされた。人に接しては暖かくその善意を信じ、常に助言、助力を惜しまれなかったが、今後の福山発展の為には特に若いリーダーの育成こそがそのかなめであるとして殊に力を注がれていたので、先生の周りは遥か年齢の若い人たちまで含め、老若を問わず、何時もにぎやかであり、ご自身若手たちを対等に迎え、意見を交わすことで、教えながら自らの考えもリフレッシュしようとされるかにみえた。

このように、何時か先生を取り囲み、あるべき地域社会を詮索せんとする群れを生む。世に所謂「林学校」と称するものであり、福山の変動、発展の跡を辿る時、少なからざる意味をもって今日に及んでいると私は思う。

私自身小学校の時の恩師、登里豊先生が県教育次長ご退官後、林先生の要望で宮沢喜一先生の福山での責任者になられたことで、当時既に宮沢派の重鎮であった先生とお会いすることが多くなり、結果的に紛れもない「林学校」入門者となった。地域発展の為には政治を避けて通る訳にいかぬと考えられる先生は、その後、福山が越えてきた大きな選択の節目節目に際し、余人をもって代え難い貴重な調停役として献身され、大きな影響を及ぼされた。

氏は福山財界の通人的趣味家でもある。小唄を堀小宏衛に就て習い、実業人として唯一の堀派の名取りである。そのほか書画・骨董、囲碁、野球などに通じている。

昭和58年(1983年)9月17日没、享年83才、誠実院慈教日慈居士、福山市北吉津町妙政寺に葬られる。(出典1~5)

出典1:『政治産業文化備後綜合名鑑』、71頁、式見静夫編、備後文化出版社刊、昭和34年9月

出典2:『茶の湯往来「林先生のこと」より』、141頁、岩崎博刊、昭和62年8月18日

出典3:『自治行政大觀 新日本人文録(広島県人国記)』、593頁、地方自治調査会刊、昭和41年11月30日

出典4:『誠之館百三十年史(上巻)』、1243頁、福山誠之館同窓会編刊、昭和63年12月1日

出典5:『備後工業特別地域産業人名鑑』、51頁、式見静夫編刊、昭和43年1月

2004年10月29日更新:経歴●2004年12月6日更新:経歴●2005年3月9日更新:出典●2005年4月8日更新:経歴・本文●2006年6月28日更新:タイトル●2006年8月9日更新:経歴●2007年7月19日更新:経歴●2007年7月20日更新:経歴●2007年11月30日更新:経歴●2009年1月27日更新:本文・出典●2009年8月24日更新:レイアウト・出典●2015年1月8日更新:経歴●